

# はくぶつかんネット

第17号

~ GINOWAN MUSEUM ~

▼ 登山in石川少年自然の家



▼ チーム対抗リレーゲーム



2003年

11~1月

3ヶ月に1回発行

(次号は2月15日)

発行: 宜野湾市立博物館

〈TEL〉 098-870-9317

〈FAX〉 098-870-9316

〈HP〉 <http://www.city.ginowan.okinawa.jp/home.nsf>

★ 平成15年度 わらば一体験じゅく ★

## 宿泊体験をしました！！

秋の季節になり、沖縄でも紅葉が…、はほとんど見られませんが、日差しも和らぎ、涼しくなり、なんとなく秋らしくなってまいりました。スポーツの秋、読書の秋、食欲の秋、いろいろありますが皆さんはどういう秋をお過ごしでしょうか。

さて、6月から始まった“わらば一体験じゅく”も11月をむかえ、ますます充実した楽しい体験じゅくになっています。そして第5回目では、“わらば一体験じゅく”始まって以来初の宿泊体験を行いました。場所は緑豊かな「石川少年自然の家」、時は10月25日(土)、26日(日)にわらば一体験じゅくのメンバーと博物館職員、計26名で石川の自然に挑みました。野焼き、冒険コース、カレーづくり、ナイトウォークラリー、登山などを行いました。

博物館職員は初の試みで楽しみでもありましたが、うまくいか少し不安な面もありました。でも、子どもたちはほとんどが一度来たことがあるらしく、慣れたものでした。唯一の初体験は土器の野焼きで、前回に形づくった土器を木材などで一気に焼き上げました。しかし、その時の燃える火の強さといったら半端じゃなく、みんな「あつい、あつい」と叫びながら驚いていました。「あー火は恐ろしい」と。カレー作りでは男女に分かれて“男のカレー”、“女のカレー”に挑戦！どちらもおいしかったけれど、“男のカレー”的方が味が濃く、まろやかでおいしかったと評判でした。ナイトウォークラリーでは、懐中電灯を片手に真っ暗な山道を「わー」「きゃー」「でたー！」と興奮していました。翌日は10月のここちよい風が吹き、とても気持ちよく登山ができました。途中でリュウキュウハグロトンボ、キノボリトカゲ、オオジョロウグモに出会い、またみんなでドングリを拾ったりと自然を楽しみました。

1泊2日の宿泊体験もみんな元気で無事終えることができました。この宿泊体験はみんなは協力し合い、助け合い、一生懸命でした。少しだけみんながたくましくなったように思います。とても楽しくていい思い出ができたのではないかでしょうか。

この“わらば一体験じゅく”は、来年2月まで行います。(※メンバーの募集は終了しています。ご了承ください。)



博物館イメージキャラクター

天女ちゃんと察度くん

◆◆◆ 第3回 講演会について ◆◆◆

## ‘伝統工芸と宜野湾市’ 開催のお知らせ

沖縄県にはすばらしい伝統工芸があります。

今回の講演会では、宜野湾市で紅型を制作している、佐藤眞佐子さんを講師にお迎えし、沖縄県の伝統工芸の紹介と現状とともに、宜野湾市の街づくりや人材育成への提案をしていただきたいと考えております。

年末のお忙しい時期ではございますが、将来の宜野湾市や進路を考える上でも参考になると思いますので、特に学生の方々の多数のご来場をお待ちしております。

□講 師：佐藤 真佐子（普天満紅型工房）

□期 日：2003年12月14日（日） 午後2時～4時

□場 所：宜野湾市立博物館 企画展示室

□対 象：中学生以上

※入場無料

## ☆ 企画展示室にて、展示会を行っています ☆

ただいま、「回想法教室」事業の一環として、昔の生活用品や農具といった民具や、昭和30年代の家の中の様子、宜野湾市の町並みの写真などを展示しております。入場は無料ですので、多くの方々のご来場をお待ちしております。

ただし、回想法教室開催中の11月19日～12月11日、2004年の2月18日～3月11日までの毎週水曜日・木曜日は、午後1時から5時までは見学はできませんので、予めご了承ください。

常設展示室のご案内

### ◆ 宜野湾人の顔 ◆

展示期間：2003年10月20日～2004年1月19日

常設展示『宜野湾人の顔』の展示替えをしました。

今回は大山区の方々です。明治から昭和生まれの先輩方7名と、小学生8名の顔写真を展示しています。この展示は2004年1月19日(月)までの予定です。

『宜野湾人の顔』は現在市内に住んでいる方々の紹介となっておりますが、この展示があるエントランスコーナー全体を通してみると、人類の進化やその時代時代による人の顔の移り変わりについて知ることができます。

この『宜野湾人の顔』の展示は、開館当初から市内の各自治会の協力を得て、約3ヶ月ごとに展示替えを行っております。

次回は、普天間1区の方々を紹介する予定です。

『宜野湾人の顔』の展示を見学する際には、常設展示室観覧料が必要となりますので、あらかじめご了承ください。



▲ 安座間原人

その他の行事報告

～宜野湾市立博物館では、どんな仕事をしているんだろう？～

## 職場体験リポート

普天間中学校の生徒5人が、10月27日～30日の3日間、当館で職場体験学習を行いました。今回は収蔵品整理や展示案内・アイデアづくり・資料採取等に加え、新たに聞き取り調査を取り入れ、実際行っている博物館業務の一部を体験してもらいました。

また、11月13日、14日の2日間には、宜野湾高等学校の生徒3人が職場体験で博物館を訪れ、展示会の準備を中心に体験してもらいました。

2校の生徒とも一生懸命に作業をこなしてくれました。普段なかなか体験することが出来ない博物館での職場体験を通して、博物館の役割やそこでの仕事の内容を理解してもらい、今回の体験で感じ・考えた様々な事を活かし、将来の何かに役立ててもらいたいと思います。

講演会の報告1

## “身近な野草を食べてみよう”の報告



▲ 野草の調理中

9月13日(土)の午前10時から午後2時まで、野草についての講習会を行いました。参加者は主婦を中心に27名でした。

最初に講師の島袋肱先生(コザ高等学校校長)とともに、博物館近くの森川公園に行き、散策しながら食べられる野草を皆で採集していきました。その後、博物館に戻り、てんぷらとジューシーにして皆で試食しました。

参加者はヨモギや、タンポポの葉、オオバコ、ハイビスカスの花びらなど身近にある様々な野草が簡単に食べられることに驚いていました。また想像していたよりもおいしかったようです。今回は家庭でも気軽に取り組めるようなメニューにしましたが、次回はもっと様々な調理が楽しめたらいいなと感じました。

講演会の報告2

## “宜野湾市の洞窟めぐり vol. 3”の報告



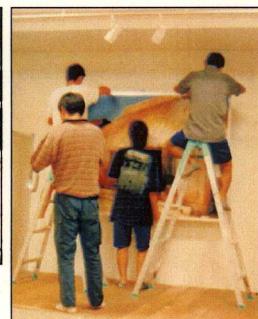
▲ 洞窟内の様子

「文化の日」の11月3日(月)に、博物館恒例の洞窟めぐりを行いました。今回は普天間飛行場内の洞窟を見学しました。参加者は26名。講師の新垣義夫先生(普天満宮宮司・博物館協議会会長)を先頭に、ティラガマ(神山)やウクマバカ(神山)、マーカガマ(赤道)、アラグスクガ(新城)の4カ所を見学しました。

参加者は普段外から見ている普天間飛行場とは違って、中から見ると、こんなに広大な土地だったことや、その中に多くの洞窟が残っていることに驚いていました。また自然の洞窟の中に入ることができ、いい体験になったようです。洞窟めぐりは今後も継続して企画する予定ですので、ぜひ興味のある方はご参加ください。



↑ 職場体験の様子 →



## ★沖縄の鉄道 vol. 2

与那原線の敷設終了後、引き続き糸満線の敷設予定がありました。第一次世界大戦勃発による諸物価の高騰により県債の募集もうまくいかず、1916(大正5)年には糸満線敷設工事の中止が決定しました。しかし、1917(大正6)年から施行された所得税法により、県民から徴収した所得税を地方産業開発の主旨で、鉄道敷設の資金を国庫より補助するということで県民に還元することが決定し、再び鉄道敷設が浮上しました。

1920(大正9)年に嘉手納線の敷設工事に着工し、1922(大正11)年に全線竣工、那覇駅と嘉手納駅(現在の嘉手納ロータリー付近)を結ぶ全長23.6キロ、総工費108万7759円(国庫補助:89万7898円)。残額は県費と県債)をかけた嘉手納線の営業が3月に開始されました。嘉手納線は沿線住民の足となるとともに、県の主要産業である製糖に関わる輸送も任命していました。当時、嘉手納には500トンの製糖工場があり、那覇港への輸送が行われていました。それまでは船で那覇港へ輸送しており天候悪化による海難が起こっていましたが、鉄道輸送により輸送力が安定したのです。また北部への中継地点としての嘉手納の役割もありました。

続いて嘉手納線営業開始の同じ年の8月に糸満線の敷設工事が着工し、翌年6月に建設費63万円(全額国庫補助)をかけて竣工、7月に営業が開始されました。糸満線は那覇駅から糸満駅(現在の糸満小学校付近)までを結ぶ全長18.3キロで、沿線住民の利用、南部産業の発展(キビ)による貨物の輸送力を高めるために、また台南製糖高嶺工場が隣接しており、津嘉山あたりからキビや製品が那覇駅へ送られました。

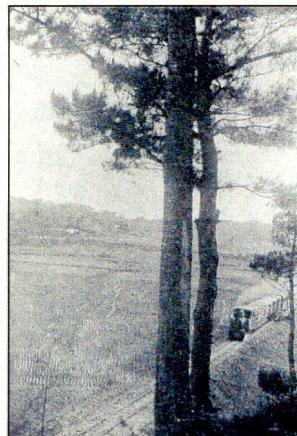
糸満線開業後、乗客は年間百万人に迫る増加を示し住民の足として定着していましたが、鉄道敷設の建設費の県債が鉄道収支を圧迫し、県財政そのものの負担になっていたため、県は鉄道を政府に買い上げてもらい国有化をと訴えました。しかし政府は規模の小さい県鉄を国営にすることはできないとし、実現はしなかったのです。その後も新しい交通手段として登場してきたバスやタクシーに対抗するためガソリンカーを導入して、スピードアップを図ったり、回数券の割引のサービスなどで乗客の獲得に努力しましたが、県鉄の経営は苦しく赤字でした。

しだいに戦争色が色濃くなつくると出征兵で満員になつたり、また軍事物資の輸送としても使われ始め、1944(昭和19)年には軍の弾薬輸送中、糸満線稻嶺付近で列車が大爆発し、250名余りの死者を出す大惨事も起きました。さらには空襲などにより那覇駅をはじめ各駅が破壊され、県鉄は甚大な被害を受けたのです。そして1945(昭和20)年3月、沖縄戦の戦火を受けて破壊された鉄道は機能を停止し、開通以来30年余走り続けた沖縄県営鉄道の歴史は、その幕を閉じました。(中里)

## ★宜野湾市立博物館 PR

当館が平成11年6月1日に開館し、早4年5ヶ月が過ぎました。歴史博物館としての位置づけで、常設展示室では宜野湾市の歴史が理解できるように展示されています。また年に2回程企画展示室において、わが学芸員諸君が企画、立案した企画展も開催され、確実に市民に親しまれるような博物館に成長しました。毎年500点を超える市内外からの膨大な寄贈資料も子どもたちの学習や、各団体への貸出など大いに活用されています。

でも、残念ながらまだ認知度が低い本市博物館。地域に根ざし・地域に学び・地域に奉仕する博物館の理念を目標にして、職員一同心を一つにして頑張っていきたいと思いますので、今後とも市民の皆様のご協力をよろしくお願い致します。(古屋)



▲牧港～大謝名間を走る嘉手納行列車

今の県営大謝名団地付近

入館料免除・資料館外貸出の申請について

## ○申請する場合は、手続が必要です。

博物館では入館料の免除申請、資料の貸出申請を行うことができます。

申請書の手続はそれぞれ、「入館料免除申請書」、「資料館外貸出許可申請書」に必要事項を記入のうえ、入館・貸出を希望する日の1週間前までに申請してください。

### ■入館料の免除申請に該当する団体

- ①教育課程に基づく学習活動として入館する学生、生徒、児童及びこれらの引率者。
- ②宜野湾市教育委員会、博物館が開催する博物館資料に関する講演会、講習会、研修会等に参加して入館する者。
- ③その他館長が免除することが適当であると認めた者。



### ■主な貸出資料

- 収蔵品
- ビデオ
- 写真

## ～あなたの家に、眠っていませんか？～

博物館では、宜野湾市を中心としたさまざまな生活用品や、当時の暮らしが分かる道具・写真・映像などの収集に力を入れています。

特に昭和20年代以降の資料については、広く募集しております。

隨時、資料の収集を行っておりますので、「こんなのがあるけど、どうかな？」と思っている方は、博物館までご連絡ください。職員がお伺い致します。

### ★ホームページについて

博物館では以前から開設しているホームページに加え、教育委員会のホームページを開設しています。両方見ていただけたとより一層、宜野湾市立博物館について理解できますので、ぜひご覧ください。

ホームページアドレス：<http://www.ginowan-okn.ed.jp/con7/index.html>



## ～市立博物館のロビーにて、証明書の交付を行っています～

住民票と印鑑証明について、市立博物館のロビーに設置された交付の窓口にて申請を行えば発行されるという仕組みです。

### ★注意事項

1) 火・土・日、祝祭日、慰靈の日、年末年始は休みです。

※火曜日が祝祭日に当たった場合の翌水曜日や、くん蒸などの臨時休館日も、休みになります。

2) 午前9時～午後4時30分まで受付します。

# 平成15年度の事業あんない

2003年4月 ~ 2004年3月

月	日	曜日	内 容	期 間
11	19	水	回想法事業「昔の生活道具展」 ※11月19日～12月11日、2004年2月18日～3月11日の期間の 毎週水曜日・木曜日は、午後1時～5時までの間は見学できません。	2004年 3月11日まで ※入場無料
12	14	日	講演会 「伝統工芸と宜野湾市」 講師:佐藤 真佐子 (普天間紅型工房) ○対象:中学生以上	午後2時～4時 ※入場無料
3	中旬	土	企画展 「宜野湾市の娯楽(仮名)」 ○期間内に、講演会・講習会などのイベント開催を予定しております	4月中旬まで ※入場無料

※ 日時や内容は未定のものもありますので、変更に関してはご了承ください。

◎ 詳しい日程や内容については、事業開催1ヶ月前にチラシや市報、新聞・雑誌の情報欄、はくぶつかんネットなどに掲載いたします。

## ◆宜野湾市立博物館の案内◆



△ 大型バスの駐車スペース有り

〒901-2224  
沖縄県 宜野湾市 真志喜 1-25-1

TEL : 098 - 870 - 9317  
FAX : 098 - 870 - 9316  
ホーリー・ヨウ : [http://www.  
city.ginowan.okinawa.jp/  
home.nsf](http://www.city.ginowan.okinawa.jp/home.nsf)



◎ 開館日・時間

平日、土、日曜日の  
午前9時～午後5時  
※入館は午後4時30分まで

◎ 休 館 日

火曜日、祝祭日、慰靈の日（6月23日）、年末年始（12月29日～1月3日）  
※その他、くん蒸による臨時休館日あり  
※火曜日が祝日にあたる場合は翌水曜日  
は休館日となります。

## ◎ 常設展示室 觀覽料

	大人	高校・大学生	小・中学生
個人	200円	100円	50円
団体	150円	50円	30円

※ 団体は20名以上から